

アラカルト

全国医師協同組合連合会 事務局課長

塚越昌人さん
tsukagoshi masato知識と仲間が増えれば
楽しい

開業医の協同組合である全国医師協同組合連合会（全医協連・東京都中央区、小林照尚会長）は、現在約35,000人の開業医の組合員を擁し、全国54単組・5つの連合会で構成されている。同会で保険などの福祉事業を担当する塚越昌人課長（福祉・総合企画担当）にお聞きした。

●先輩組合士に「今も感謝」

塚越課長が検定試験に合格したのは、平成22年。「当連合会の会員組合の職員で組合士の資格を持っている方から、『組合法の勉強のために受験してみてもどうか?』と受験案内を送付いただきました。あの時に後押ししていただけてよかったと、今も感謝しています」

受験に際してネックとなるのは、就業と勉強時間の両立だが、それほど苦にはならなかったという。

「試験の問題は日常の業務に関連していますから、会議の議事録の作成など、試験問題に合わせた勉強もできると思います。議事録を作成する際なども勉強してよかったと思いますね」

受験勉強に割く時間がないと決めつけず、業務にリンクさせるのは有効な勉強方法である。

●有意義な研修の参加も魅力

所属する東京都中小企業組合士協会の研修にも積極的に参加している。

「この研修は、とても有意義だと思います。東京都の協会は約570人の会員がいますが、東京都中央会のご協力もあって研修制度が充実しています。新しい情報や、知識の再確認のための機会が多いですね。年4回の集合研修では、相続税や民法などの法改正に関するもののほか、孫子の『兵法』に学ぶビジネス戦略など時代に即した話題のテーマをジャストタイミングで学ぶことができます」

また、会員間の情報交換の場が多いこともメリットだ。「協会の新事業研究部に発足時から参加させていただいています。15人ほどで意見交換をする『組合の事例発表』などの会員間の相互交流はとても楽しみです。多くの研修や交流の機会があるので、さまざまな業種の幅広い年齢層の組合士の方々とお話もできます。これがとても楽しいのです」

組合士は、若手からベテランまで幅広い。「たとえば、第1回目の組合士試験で合格した方から組合士協会の歴史をお聞きすることもあります。諸先輩方から経験に基づくたくさんの組合運営に関する『生』の声をお聞きできるのは勉強になりますね。資格を取得してよかったと思っています」

受験をめざす方へのメッセージもいただいた。「組合法や組合会計などの勉強は必ず役に立ちます。また、他の組合の方々との交流は相談できる先輩や友達も増え、大きな財産になります。この二つを実現できるのが組合士です。ぜひ受験にチャレンジしてみてください。医療業界に限らず、経済の低迷や少子高齢化などで課題が多い昨今ですが、組合士が知恵を出し合うことで、解決策も見えてくるのではないのでしょうか」

困難な時代にこそ、協同組合と組合士の存在は重要だ。